

《特集・安曇野の景観をめぐる》

【論文】

景観評価と地域移動

—安曇野市景観意識調査の分析—

中野康人

【要旨】

本稿の目的は、2010年3月に長野県安曇野市で実施した景観に関する意識調査の概要を報告するとともに、安曇野市民が何を美しい景観と捉えているのかを記述し、地域移動の経験が景観意識に与える影響を検証することにある。この調査は、安曇野市民の景観に対する意識や行動とともに、過去の地域移動の経歴や思い出をたずねている。有効回収数は580票（標本数1080、回収率53.7%）である。安曇野市民の景観に対する評価は極めて高く、山を始めとする自然環境が重要な要素となっている。地域移動の経験については、特にUターン型の経験が景観への評価に影響力をもつ。

キーワード 景観、安曇野市、地域移動

1. 調査の経緯

景観に対する人々の評価は、同じ対象物についてであっても、評価する人によって異なる判断が下されうる。ある人にとっての美しい建物は、別の人にとって不快な景観を生み出しているかもしれない。雄大な自然の姿を好む人もいれば、それを退屈なものだと感じる人もいるだろう。道路沿いに林立する看板、地域性に欠如した全国チェーンの商業施設。こうした光景を「生活を便利にするもの」と受けとめる人もいれば、「地域の景観を破壊するもの」と考える人もいるだろう。景観に対する主観的な好みや判断基準の違いは、地域社会全体での景観に対する評価を困難にする要因の一つである。

また、地域社会の景観は、個別の権利を保有する私有財が集合して成り立っている集合財である。個々の家屋や個人が所有する土地

が集まって、全体の景観が形成される。私有財をどのように取り扱うのかは、基本的には所有者の「自由」である。景観を論じるということは、個人の自由と社会全体の利益のジレンマを論じることと等しい。2002年の景観法施行の影響もあり、地域社会が自らの景観を定義し、それを形成・保持していこうという動きが広がっている。紛争なく景観を形成・保持するには、社会全体の構成員による合意が必要となってくる。そのためには、人々が何をよい景観と捉えているのかを把握する必要がある。そして、個人によって景観の捉え方に違いがあるとするならば、どのような社会的要因がその違いをもたらしているのかを把握すれば、より円滑な合意に結びつけることができるだろう。本稿では、「安曇野」を対象にした調査研究から、この問題に取り組んでいく。安曇野は、そこに居住する住民のみならず他地域の住民にとっても、景

観が目浮かぶ一つの「ブランド」になっていると言ってもよいだろう。田畑の向こうに見えるアルプスの山並み、清冽な水の流れとわさび田、路傍の道祖神。ガイドブックに垣間見える安曇野の景観は、はたしてそこで暮らす住民にとってどのような意味を持つのであろうか。安曇野市民は安曇野の景観をどのように評価し、何をよい／よくない景観であると考えているのだろうか。

本稿の目的は、(1) 安曇野のひとびとが自らが住んでいる地域の景観の何をどのように認知・評価しているのか記述的に分析し、

(2) その評価に影響する社会的な要因を検証することにある。社会的な要因として本稿で注目するのは、「地域移動」である。ひとつの景観を評価する際に、その価値を相対的に評価できるか否かは、その景観が無い状態を知っているかどうかにより大きく影響されるだろう。安曇野の景観がよいものであるという前提にたてば、安曇野外の景観を経験している人はより安曇野の景観を高く評価するはずである。目的の(1)は、記述的な問であるが、(2)については次のような仮説をたてる。

【仮説】

移動経験は景観評価を向上させるので、移動経験がある人ほど安曇野の景観を高く評価

する。

以下では、調査データにもとづいて、この問を検証していく。

2. 調査企画の概要

表1は、今回の調査企画の概要である¹⁾。調査実施にあたっては、信州大学人文学部社会学研究室(村山研一教授)および安曇野市役所と連携し、調査票設計へのアドバイス、住民基本台帳閲覧への協力をいただいた。母集団は、標本抽出時点で安曇野市に住民登録している20才以上74才以下の男女で、地域的な分散を確保するために、108の行政区ごとに10標本ずつを系統抽出した。対象者には、まず調査の依頼状を送付し、その後返信用封筒を同封した調査票を郵送した。実査時の挨拶文には、回答方法としてインターネットが利用できる旨説明し、webでの回答も促した。結果として、552票が郵送で返送され、28票がwebで回答された²⁾。有効回収率は、全体で53.7%である。

web調査票は、紙媒体と同じ文面の調査票をwebブラウザで閲覧できるようにhtml化し、あてはまる選択肢をブラウザ上でクリックすることにより、回答ができるように設計した。自由記述についても、回答欄に直接テキストを入力できるようにした。選択・記述された

表1：調査企画の概要

【調査名】	安曇野市民の生活と意識に関する調査
【母集団】	2010年3月1日現在、安曇野市に居住する20歳以上74歳以下の男女
【標本抽出方法】	住民基本台帳から108の行政区ごとに10標本ずつ系統抽出
【調査対象者】	1080名
【調査期間】	2010年3月8日～2010年3月23日
【有効回収数】	580票(郵送552票, web回答28票)
【有効回収率】	53.7%
【調査方法】	郵送自記式, 一部web回答
【web調査URL】	http://www.soc-nakano.net/azumino.html

回答は、最終的に画面上の送信ボタンを押すと、そのままデータ化されて調査者のサーバに蓄積される仕組みである。悪戯を防ぐために、郵送した依頼文にweb調査票アクセス用のIDとパスワードを記載し、それ無しでは調査表の閲覧および調査への回答ができないようにした³⁾。

先述のresearch questionを中心的課題にすえて、以下のような質問項目を調査票に取り入れた。

郵便番号、性別、生年、住居形態、農地所有、居住地・居住時期、安曇野景観の具体例、安曇野景観に欠かせないもの、安曇野景観に重要であるもの、安曇野景観の印象心に残る思い出の風景、安曇野市の印象、変化した景観、近所付き合い、近隣への意識、地域で重要なこと、安曇野・松本・長野・東京のイメージ、理想のまち、まちの魅力、居住希望、職業、同居家族数、健康状態、暮らし向き、主観的幸福感

調査結果の概要については、中野ら(2010)と関西学院大学社会学部生活環境研究会(印刷中)に詳しい。表2は、回答者の性別、年代を地区別に集計したものである。各地区にまんべんなく回答者が分布している

表2：調査対象者の分布

	三郷	穂高	豊科	堀金	明科	基数
全体	15.2	28.5	27.3	11.5	17.5	100.0
頻度	(87)	(163)	(156)	(66)	(100)	(572)
男性	17.9	26.4	24.0	12.2	19.5	(246)
女性	12.9	30.2	29.8	11.1	16.0	(325)
20代	16.7	26.2	38.1	11.9	7.1	(42)
30代	13.9	29.1	34.2	7.6	15.2	(79)
40代	21.2	27.9	26.0	7.7	17.3	(104)
50代	13.2	29.5	21.7	17.8	17.8	(129)
60代	14.2	30.4	26.4	7.4	21.6	(148)
70代	16.1	23.2	28.6	12.5	19.6	(56)

が、母集団の人口構成と比較すると、年齢が高めの層および女性が若干多いといえる。図1,2,3,4,5,6は、回答者の諸属性の単純集計である。国勢調査などと比較すると、今回の調査の回答者には、「持家戸建」に住む人の割合が高い。健康状態などの回答から推察すると、良好な生活を送っている回答者が多いことが伺える。

3. 安曇野市の景観

3.1. 景観の評価

安曇野市の景観について、四つの軸（美しい・美しくない、明るい・暗い、好きな・好きでない、変えたい・変えたくない）でその評価をたずねた(図7)⁴⁾。大多数の回答者がポジティブな評価をしていることがわかる。そして過半数の回答者がこの景観を「変えたくない」と考えている。

3.2. 景観の具体例

次に、回答者が具体的にどのようなものを安曇野市の景観と考えているかをまとめてみる。表3は、安曇野市の景観として思い浮かべる場所やものを自由記述でたずねた結果から、意味のある頻出単語を抜き出したものである⁵⁾。

表3：「安曇野景観の具体例」の頻出単語とその頻度

北アルプス	わさび	田園	風景	常念岳	アルプス
(194)	(181)	(157)	(147)	(141)	(116)
田	畑	山	山々	川	安曇
(114)	(98)	(87)	(81)	(64)	(60)
水	道祖神	穂高	水田	きれい	念
(56)	(54)	(52)	(46)	(43)	(42)
大王	田んぼ	有明山	自然	北	景色
(39)	(39)	(35)	(33)	(32)	(30)
山脈	農場	白鳥	空	長峰山	野
(29)	(29)	(29)	(28)	(28)	(25)

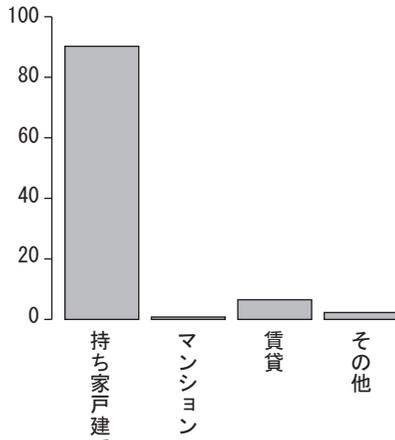


図1：回答者の住居形態

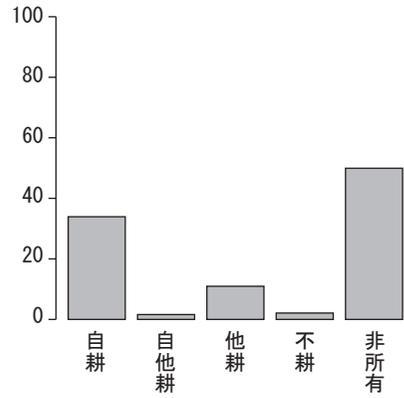


図2：回答者の農地所有

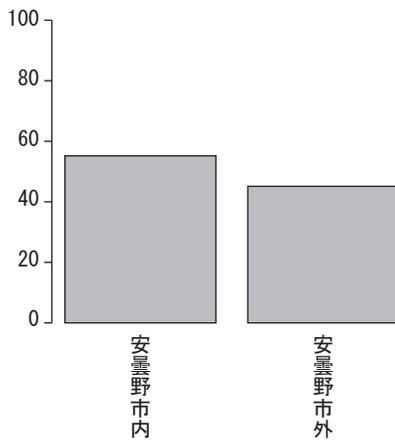


図3：回答者の通勤地

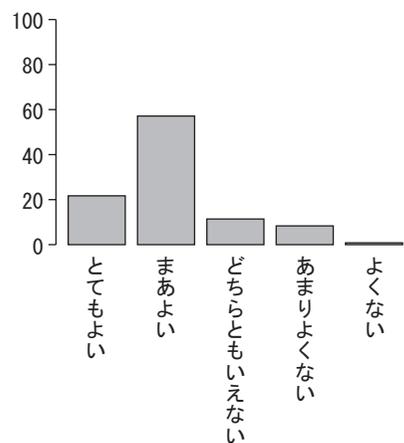


図4：回答者の健康状態

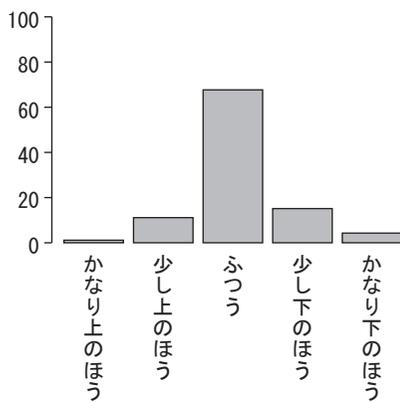


図5：回答者の暮らし向き

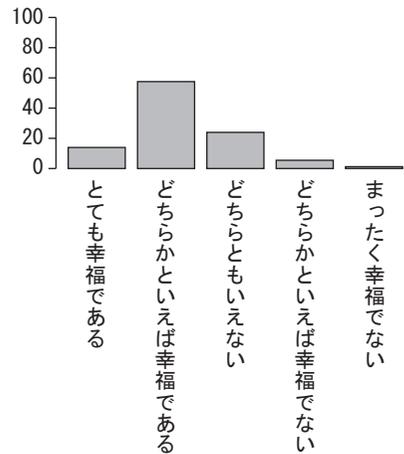


図6：回答者の主観的幸福感

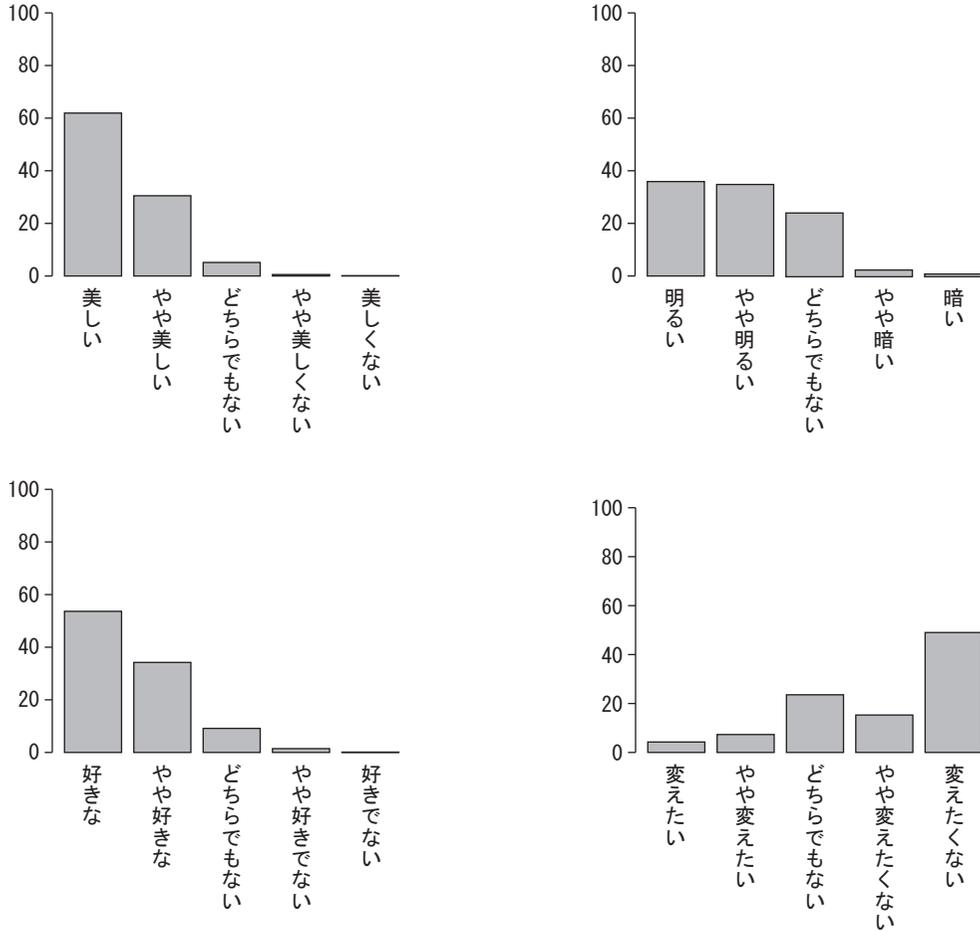


図7：安曇野市の景観に対する評価

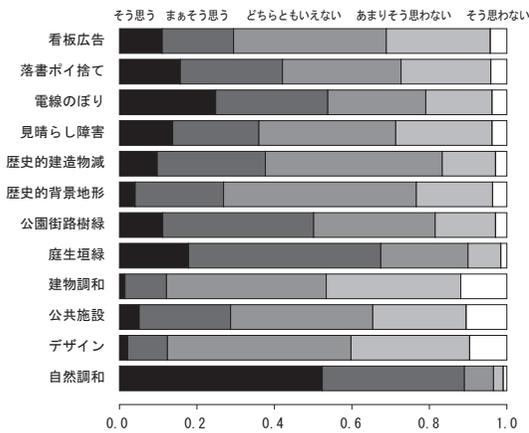


図8：安曇野市の景観の諸側面に関する認知

最も多く言及された単語は「北アルプス」である。「常念岳」「アルプス」「山」「山々」「有明山」などとともに、「アルプス」が安曇野景観の具体的要素としてあげられている。次に、「わさび」や「大王」「農場」といった「わさび」関連、「田園」「畑」「水田」といった農村風景、「川」「水」といった水辺の風景、そして「道祖神」などがよく言及されている。

3.3. 景観認知

回答者が、景観を構成するいくつかの側面をどのように認知しているかを確認してみ

る⁶⁾(図8)。

自然や緑に関する側面については、多くの市民が肯定的に認知していることがわかる。一方、建物や施設のデザインや調和といった側面については、中立的な回答が多い。歴史的な景観についても、中立的な回答が多くみられた。電線やのぼり、落書きやポイ捨てといった要素については、少なからぬ市民が気にしていることがわかる。

3.4. 景観認知が景観評価に与える影響

では、こうした景観の認知は景観評価にどのような影響をもたらすのだろうか。表4は、各景観評価を被説明変数にして、景観認知と回答者の属性を説明変数に投入した重回帰分析の結果である⁷⁾。美しい・美しくないの評価については、自然との調和がもっとも強い効果がある変数という結果になった。つまり、安曇野市の景観が自然と調和していると認知する回答者ほど、安曇野市の景観を美しいと評価しているということである。いいかえれ

表4：景観認知が景観評価にもたらす影響

	美しい	明るい	好きな	変えたい
(Intercept)	1.64 ***	2.57 ***	1.43 ***	4.62 ***
自然調和	0.52 ***	0.37 ***	0.48 ***	-0.24 ***
デザイン	-0.01	0.01	0.03	0.10
公共施設	0.07	0.28 ***	0.16 **	-0.17 **
建物調和	-0.03	0.04	-0.10	0.09
庭生垣緑	0.11 .	0.18 *	0.21 **	0.05
公園街路	-0.05	-0.19 **	-0.08	0.03
歴史的背景	0.12 .	0.14 .	0.15 *	-0.21 **
減歴史建物	0.04	0.09	0.01	0.03
見晴障害	-0.05	-0.12 .	0.02	-0.03
電線のぼり	0.02	0.10 .	-0.01	-0.02
落書ポイ捨	-0.09 .	-0.16 **	-0.02	0.11 *
看板広告	0.08	0.08	0.04	-0.07
性別 (女)				
性別 (男)	0.07	0.06	0.19 .	-0.23 *
年齢				
年齢	-0.01	-0.02 ***	-0.01 *	0.00
土地 (自耕)				
土地 (自他耕)	-0.17	-0.03	-0.13	0.13
土地 (他耕)	-0.10	0.14	0.13	-0.08
土地 (不耕)	-0.31	-0.47	-0.26	0.17
土地 (非所有)	-0.05	-0.00	-0.03	-0.09
Adj. R ²	0.1919	0.1946	0.1870	0.0649

Signif. codes: 0 ‘***’ 0.001 ‘**’ 0.01 ‘*’ 0.05 ‘.’ 0.1 ‘ ’ 1

ば、自然が安曇野市の景観の美しさをはかる重要な側面になっているということである。次に強い効果を持つのは、歴史的背景や地形を活かしているという認知である。明るい・暗いの評価については、自然との調和のほか道路や公園等の公共施設の充実が強い効果がある。好きな・好きでないの評価については、それらに加えて家々の庭や生垣等の緑に関する認知の効果が強い。変えたい・変えたくないもほぼ同様である。

全体的に、自然や緑に関する認知が景観評価に強い影響をもたらしているといっていよう。

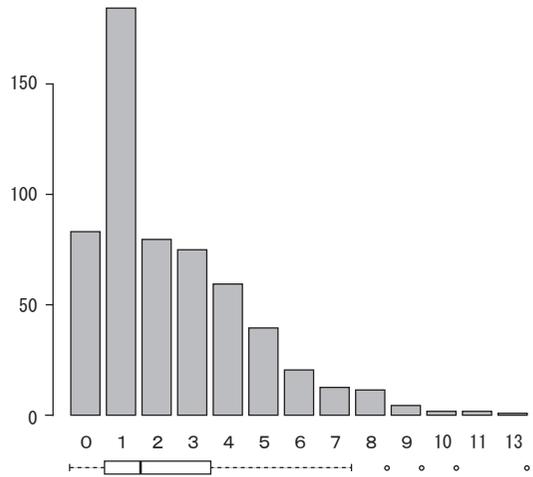


図9：回答者の地域移動の回数

4. 地域移動と景観

4.1. 地域移動の経験

ここからは、地域移動と景観評価の関係を調べていく。まず、回答者の地域移動の経験を確認したい。調査票では、回答者の安曇野市外への移動経験を尋ねている⁸⁾。図9は、回答者の地域移動の回数を集計したものである。平均の移動回数は2.46、中央値は2.0、標準偏差は2.21で、最大で13回の移動を経験している人がいる。安曇野市外への地域移動の経験を全くしていない回答者は、全体の30.3%である。移動経験がある回答者の中で、安曇野市内で生まれた後に一旦市外に転居し、その後再び安曇野市内に戻ってきているものを「Uターン」型の移動と名付ける。Uターン型の移動を経験している回答者は、12.3%である。市外で生まれ、安曇野市内に移動してきた回答者を「転入」型の移動経験をしたものとする。転入型の回答者は、57.4%いる(表5)。属性と移動経験との関係を見てみると、男性の方が女性よりも移動経験無しの比率が高く、女性は特に転入の比率が高くなっている。年代別では、20代と60代、70代に移動経験が無い回答者が多い。Uターン型

表5：移動経験の種類

	市外移動無	Uターン	転入	基数
全体	30.3	12.3	57.4	100.0
頻度	(175)	(71)	(332)	(578)
男性	34.9	15.1	50.0	(252)
女性	26.5	10.2	63.4	(325)
20代	45.2	16.7	38.1	(42)
30代	21.2	13.8	65.0	(80)
40代	21.2	15.4	63.5	(104)
50代	26.2	13.8	60.0	(130)
60代	34.9	10.5	54.6	(152)
70代	41.1	5.4	53.6	(56)
三郷	20.7	14.9	64.4	(87)
穂高	26.4	11.0	62.6	(163)
豊科	27.6	12.8	59.6	(156)
堀金	40.9	10.6	48.5	(66)
明科	42.0	13.0	45.0	(100)

の移動は、比較的若い世代で比率が高くなる。地区別では、堀金と明科に移動経験が無い回答者が多い。三郷、穂高、豊科では、転入型の移動を経験した回答者が多い。

4.2. 地域移動が景観評価にもたらす影響

では、この移動経験が景観評価にどのような

な影響をもたらすのだろうか。冒頭で述べた仮説では、「移動経験がある程評価が高くなる」と予想した。まずは二変数間のクロス表をみてみよう（表6）。美しい・美しくないの評価については、移動経験が無い回答の方が美しいと回答する比率が高いが、独立性の検定からすると有意な関係ではない。明るい・暗いの評価については、移動経験が無い回答の方が明るいとは回答する比率が高いが、これも有意な関係ではない。好きな・好きでないの評価については、Uターン型の移動を経験した回答者が好きと回答する比率が高い。ただし、これも有意な関係ではない。変えたい・変えたくないの評価については、Uターン型の移動を経験した回答者が変えたいと回答する比率が高い。移動経験が無い回答者は、半数が変えたくないと評価しているものの、変えたいもしくはやや変えたいと回答する比率は少なくない。これに対して、転入型の移

動をした回答者は、変えたい、やや変えたいの比率が比較的低い。この関係は有意水準5%で有意である。ただし、この分析では「何を」「どのように」変えたい／変えたくないのかは判然としない。可能性としては、ここまで築いてきた景観を新しいものに変えたい、というのが一つの変化の方向としてある。一方で、景観がかつてにくらべて変化してしまったのでもとのように戻したい、という変化の方向もありうる。Uターン型の回答者が多く「変えたい」と考える方向性は、どちらについても蓋然性がある。外の世界を経験したが故に違うものに変えたいと考えてもおかしくないし、過去の記憶を保持したまま戻ってきたが故に現状との違いを埋めたいと考えてもおかしくない。いずれにせよ、この分析で確実に言えるのは、移動経験の種類によって変えたい・変えたくないの評価が異なってくる、ということである。

表6：地域移動の経験と景観評価の関係

	美しい	やや美しい	どちらでもない	やや美しくない	美しくない	基数
安曇野外移動無し	65.90	26.01	6.94	1.16	0.00	(173)
Uターン	57.14	32.86	7.14	1.43	1.43	(70)
転入	62.27	33.13	3.99	0.31	0.31	(326)
X-squared = 9.6703, df = 8, p-value = 0.2889						
	明るい	やや明るい	どちらでもない	やや暗い	暗い	基数
安曇野外移動無し	38.32	32.34	24.55	2.99	1.80	(167)
Uターン	35.71	24.29	35.71	4.29	0.00	(70)
転入	35.08	38.77	22.15	2.46	1.54	(325)
X-squared = 10.4671, df = 8, p-value = 0.2338						
	好きな	やや好きな	どちらでもない	やや好きでない	好きでない	基数
安曇野外移動無し	56.97	29.09	10.91	3.03	0.00	(165)
Uターン	63.38	28.17	7.04	1.41	0.00	(71)
転入	50.62	38.89	8.64	1.23	0.62	(324)
X-squared = 10.6143, df = 8, p-value = 0.2245						
	変えたい	やや変えたい	どちらでもない	やや変えたくない	変えたくない	基数
安曇野外移動無し	4.40	10.06	24.53	10.69	50.31	(159)
Uターン	10.00	7.14	15.71	21.43	45.71	(70)
転入	2.81	6.25	25.31	15.94	49.69	(320)
X-squared = 15.7163, df = 8, p-value = 0.04663						

こうした関係が、移動経験そのものの効果なのか、それとも背後にある別の要因の効果であるのか、二変数間の関係を単純に分析した限りではわからない。そこで次に、回答者の属性変数と景観認知の変数も含めて、景観評価と地域移動の関係を分析する。表7は、各景観評価を被説明変数においた重回帰分析の結果である⁹⁾。説明変数には、移動経験と景観認知の他に、年代、性別、農地所有を投入してある。また、model1は移動経験のダミー変数に関して移動経験無しをベースにした場合の偏回帰係数を提示している。model2は、転入をベースにした場合の偏回帰係数である。

美しい・美しくないの評価について、クロス表の分析と同じく地域移動の経験は影響をもたないという結果になる。自然との調和がとれているという認知や歴史的背景や地形が活かされているという認知が美しさの評価に関係しているものの、移動経験を含めた回答者の属性変数は影響がないということがわる。明るい・暗いの評価についても、地域移動の経験の効果は有意ではない。いくつかの景観

認知と年齢の効果があるのみである。年齢については、高齢者ほど安曇野の景観を明るいと評価する傾向にある。好きな・好きでないの評価については、model1では移動経験は有意でないが、model2では有意になる。つまり、移動経験が無いかどうかは影響しないが、転入者であるかどうかは好きであるかどうかには有意な影響があるということである。厳密には、転入者に比べるとUターン型の移動を経験した回答者はより安曇野の景観を好きであると評価していることになる。変えたい・変えたくないの評価については、クロス表の分析では地域移動との関連が見られたが、ここでは有意な効果がないという結果になった。変えたいか否かに関係しているのは、自然との調和や歴史的背景・地形といったいくつかの景観認知と性別である。男性の方が女性よりも安曇野の経過を変えたい、と考えているのである。回帰分析で「変えたい」に対する地域移動の効果がみられないのは、いくつか理由が考えられる。一つは、Uターン型の移動経験は男性に多いので、性別を交えた分析を行うと移動経験の効果が無くなるもの

表7：地域移動が景観評価にもたらす影響

	美しい		明るい		好きな		変えたい	
	model1	model2	model1	model2	model1	model2	model1	model2
(Intercept)	0.55 *	0.60 **	1.14 ***	1.18 ***	0.39 ***	0.45 .	4.56 ***	4.67 ***
自然調和	0.33 ***	0.33 ***	0.27 ***	0.27 ***	0.34 ***	0.34 ***	-0.24 ***	-0.24 ***
デザイン	0.00	0.00	0.03	0.03	0.04	0.04	0.10	0.10
公共施設	0.03	0.03	0.19 ***	0.19 ***	0.10 **	0.10 **	-0.17 **	-0.17 **
建物調和	-0.02	-0.02	0.01	0.01	-0.07	-0.07	0.09	0.09
庭生垣縁	0.06	0.06	0.12 *	0.11 *	0.09 *	0.09 *	0.05	0.05
公園街路	-0.09	-0.03	-0.14 **	-0.14 **	-0.04	-0.04	0.03	0.03
歴史的背景	0.10	0.10 **	0.13 *	0.13 *	0.12 **	0.12 **	-0.20 **	-0.20 **
減歴史建物	0.03	0.03	0.08	0.08	0.03	0.03	0.04	0.04
見晴障害	-0.01	-0.01	-0.07	-0.07	0.03	0.03	-0.04	-0.04
電線のぼり	0.02	0.02	0.08 *	0.08 *	-0.00	-0.00	-0.02	-0.02
落書ポイ捨て	-0.05	-0.05	-0.13 ***	-0.13 ***	-0.02	-0.02	0.11 *	0.11 *
看板広告	0.03	0.03	0.04	0.04	0.01	0.01	-0.07	-0.07
性別(女)								
性別(男)	0.05	0.05	0.04	0.04	0.09	0.09	-0.21 *	-0.21 *
年齢	-0.00	-0.00	-0.01	-0.01 ***	-0.00	-0.00	0.00	0.00
土地(自耕)								
土地(自他耕)	-0.11	-0.11	-0.07	-0.07	-0.09	-0.09	0.10	0.10
土地(他耕)	-0.04	-0.04	0.11	0.10	0.06	0.06	-0.10	-0.10
土地(不耕)	-0.17	-0.17	-0.22	-0.22	-0.14	-0.14	0.18	0.18
土地(非所有)	-0.00	-0.00	0.02	0.02	0.04	0.04	-0.11	-0.11
移動(移動無し)		-0.05		-0.04		-0.05		-0.12
移動(Uターン)	0.07	0.02	0.03	-0.01	-0.15	-0.20 *	0.03	-0.09
移動(転入)	0.05		0.04		0.05		0.12	
Adj. R ²	0.240	0.240	0.228	0.228	0.229	0.229	0.063	0.063

Signif. codes: 0 '***' 0.001 '**' 0.01 '*' 0.05 '.' 0.1 ' ' 1

と推察される。もう一つは、地域移動と変えたい・変えたくないの関係が線形の関係ではない、ということもある。

4.3. 地域移動が具体的景観の記述に与える影響

次に、地域移動の経験が景観の具体例の記述に影響を与えるか否かを検証してみる。ここで、安曇野景観の具体的記述のうち、山に

関する記述（アルプス、北アルプス、光城山、山、山々、山脈、常念岳、長峰山）を、「アルプス」系の記述としてコード化する。また、わさびを含む田園風景に関する記述（わさび、水田、水路、田、田んぼ、田園、田植え、畑、稲刈り）を「田園」系の記述としてコード化する。「アルプス」系の単語は、回答者の79.9%がその自由記述の中で言及している。「田園」系の単語は、65.1%の回答者が言及

表8：地域移動が具体的景観の記述にもたらす影響

	「アルプス」系あり	「アルプス」系なし	基数
安曇野外移動無し	0.74	0.26	(175)
Uターン	0.90	0.10	(71)
転入	0.81	0.19	(332)
X-squared = 9.0772, df = 2, p-value = 0.01069			
	「田園」系あり	「田園」系なし	基数
安曇野外移動無し	0.52	0.48	(175)
Uターン	0.80	0.20	(71)
転入	0.69	0.31	(332)
X-squared = 22.2734, df = 2, p-value = 1.457e-05			

表9：地域移動が具体的景観の記述にもたらす影響

	「アルプス」系記述		「田園」系記述	
	model1	model2	model1	model2
(Intercept)	0.85	1.20 **	0.64	1.15 **
年代	0.01	0.01	-0.00	-0.00
性別:女性				
性別:男性	-0.16	-0.16	-0.46 *	-0.46 *
農地:非所有				
農地:不耕	-0.14	-0.14	0.21	0.21
農地:他耕	-0.08	-0.08	0.13	0.13
農地:自他耕	-0.45	-0.45	-0.14	-0.14
農地:自耕	-0.06	-0.06	-0.13	-0.13
安曇野外移動無し		-0.34		-0.51 *
Uターン	1.15 **	0.80	1.22 ***	0.72 *
転入	0.34		0.51 *	
AIC	565.69	565.69	711.62	711.62

している。

表8は、地域移動の経験と具体的述における「アルプス」系記述の有無と「田園」系記述の有無の関係を集計したものである。いずれも、安曇野外に移動した経験を持たない回答者は、そうでない回答者よりもそれらの記述をする比率が低いことがわかる。特に、Uターン型の移動を経験している回答者は、アルプスや田園を安曇野景観の具体例としてあげる可能性が高いといえる。どちらのクロス表も、独立性の検定で有意な関係がある。

表9は、記述の有無を被説明変数とし、移動経験を始めとする回答者の属性を説明変数においたロジスティック回帰分析の結果である。model1は、移動経験無しをベースにおいたもので、model2は、転入をベースにおいた分析の結果である。「アルプス」系の記述の有無については、Uターン型の移動を経験した回答者は、移動経験が無い回答者に比べても、そして転入型の移動をした回答者に比べても、有意に多く記述をする傾向にある。移動経験無しの場合と転入型の回答者に有意な差は無い。「田園」系の記述については、移動経験無しよりは転入の方が、転入よりはUターン型の方が、より記述をする傾向にある。

5. まとめ

ここまでの分析結果をまとめよう。景観は主観的なものであり同じ対象についても異なる評価がなされるうる、というのが本稿の前提となる基本的な考えかたである。まず、安曇野市の景観というひとつの対象について人々がどのような評価を行っているのかを、調査票調査のデータから記述的に分析した。美しい・美しくない、明るい・暗い、好きな・好きでない、変えたい・変えたくない、という四つの側面に関する評価をたずねたと

ころ、結果として、回答者はいずれの側面についても安曇野市の景観に非常に高い評価を与えていることがわかった。また、具体的な景観としては山や自然の景観をあげる人が多数であった。自然や緑に関する認知が、景観の評価に強い影響を与えている。

そうした安曇野市の景観について、回答者の地域移動の経験はどのような効果をもつのか。景観を相対的に見ることができるという理由で、移動経験があると安曇野市の景観を高く評価するようになる、という仮説をたてた。二変数レベルの関係では、変えたい・変えたくないという評価についてのみ、有意な関係が観察された。回答者の属性および景観認知を加えた分析では、好きな・好きでないという評価についてのみ、移動経験の有意な効果がみられた。Uターン型の移動経験者は転入型の移動経験者に比べて、安曇野市の景観をより好きであると評価しているのである。二変数間のクロス表の分析で有意だった変えたい・変えたくないとの関係は、この分析では有為な効果を検出できなかった。

安曇野市の景観の具体例の記述については、移動経験の違いによって記述内容に有意な差がみられた。「アルプス」系の記述も、「田園」系の記述も、Uターン経験者が顕著により多く記述する傾向にあることがわかった。

以上の結果から、移動経験が景観評価に影響するという仮説は、完全ではないにしても多少は支持されたと結論づけたい。美しい・美しくないといった評価の違いには移動経験の効果が見いだせなかったが、そもそも今回の調査データは美しいという評価をする回答者が多く、分散が少ないために説明変数の効果を見だしにくいという難点があった。それでも、景観の具体例を挙げる視点が移動経験によって明確に異なることは指摘できた。Uターン型の経験した回答者の視点は、地域

の景観、ひいてはそのブランドを掘り起こすための有用な材料になるといえるだろう。

【注】

- 1) 調査実施にあたっては、関西学院大学の2009年度教育研究活性化資金「基礎的研究」の支援を受けた。2010年度以降は、関西学院大学先端社会研究所の景観・空間プロジェクトの一部として分析作業を進めている。
- 2) 実査期間の最初の数日間、挨拶文に記載されたURLにアクセスできないという不備があった。web回答を試みた回答者は28人より多くいたものと推測される。
- 3) このIDとパスワードは、全対象者共通のものとした。web調査の潜在的欠点である重複回答を防ぐには、個別のIDを発行した方がよいといえるが、回答者の特定化の懸念から回収率がさがることを考慮して、全体で統一したIDとした。web調査票を設置しているサーバーのlogを参照した結果、何件かの「ボタンの押し間違い」によると思われる重複回答が確認できたので、有効票から除外した。
- 4) 具体的質問文は以下のとおり。
あなたは安曇野市の景観について、どのような印象を持っていますか。(a)～(d)のそれぞれについて、あなたの印象に近いもの一つずつえらんでください。[それぞれを五段階でどちらに近いかを評価。]
(a) 美しい美しくない
(b) 明るい暗い
(c) 好きな好きでない
(d) 変えたい変えたくない
- 5) 具体的質問文は以下のとおり。
「安曇野市の景観」といわれたとき、どのような景観を思い浮かべますか。具体的場所の名前やそこに見えるものなど、あなたが考える「安曇野市の景観」をご自由にお書きください。
- 6) 具体的質問文は以下のとおり。
あなたは、安曇野市についてどのように感じていますか。以下の(a)～(l)それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。[それぞれの項目について、「そう思う」から「そう思わない」の

五段階で評価。]

- (a) 山、川など自然と調和している
 - (b) デザインの良い住宅や店が多い
 - (c) 道路や公園などの公共施設が整っている
 - (d) 建物の色や形など、まち全体の調和がとれている
 - (e) 家々の庭や生垣などの緑が多い
 - (f) 公園や街路樹などの緑が多い
 - (g) 歴史的背景や地形が活かされている
 - (h) 歴史的な建造物が減っている
 - (i) 見晴らしを悪くする建物や構造物が目につく
 - (j) 電線やのぼり旗が目につく
 - (k) らくがきやポイ捨てゴミが多い
 - (l) 派手な看板や広告物が多い
- 7) 「美しい・美しくない」、「明るい・暗い」、「好きな・好きでない」、「変えたい・変えたくない」、それぞれについて前者に"1"を後者に"5"を付与した。選択肢は五段階評価なので、被説明変数は1から5の数値を含む変数となる。
 - 8) 具体的質問文は以下のとおり。
安曇野市(旧5町村)を含め、これまであなたが住んだことのある市町村名とその時期をすべて教えて下さい。ない場合は、「なし」とお書き下さい。

年齢	市町村名(旧市町村名でも可)
(例) 0歳～35歳	長野県長野市
 - 9) 「美しい・美しくない」、「明るい・暗い」、「好きな・好きでない」、「変えたい・変えたくない」、それぞれについて前者に"1"を後者に"5"を付与した。選択肢は五段階評価なので、被説明変数は1から5の数値を含む変数となる。

【文献】

- [1] 関西学院大学社会学部生活環境研究会、印刷中、『安曇野市民の生活と意識に関する調査』報告書。
- [2] 中野康人・岡本卓也・渡邊勉、2010、「景観の評価と構成要素—安曇野景観意識調査—」、『関西学院大学先端社会研究所紀要』、4：21-33。

(受稿日 2011. 11. 30 掲載決定日 2011. 12. 19)
(なかの・やすと／関西学院大学社会学部)

Evaluations of Landscape and Regional Mobility: Analysis on Azumino Life Environment Survey

NAKANO Yasuto

[Abstract]

The purpose of this paper is (1) to report results of descriptive analysis on social survey conducted in 2010 at Azumino-city, Nagano-pref., Japan, (2) to grasp how Azumino citizens perceive the landscape of Azumino-city, and (3) to analyze effects of regional mobility of citizens on their evaluations of the landscape. Respondents of the survey have high evaluations on the landscape of Azumino. Important factors of the landscape they describe are natural environments such as "mountains", "rice fields" and so on. Experience of regional mobility, especially "U-turn" movements, effects on their evaluations.

Keywords landscape, Azumino, regional mobility